



コアタイム
C:15:00~15:30

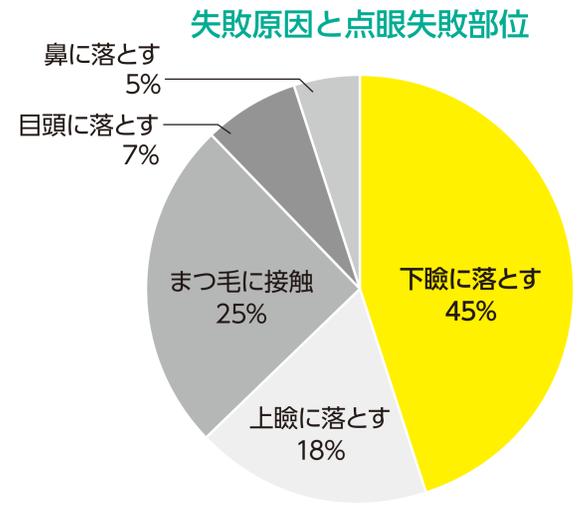
株式会社エスワイ精機 首長 英夫 山梨大学 医学域(眼科学) 柏木 賢治

今後の展開 商品イメージ
応用できる分野

上手に目薬を使えない方用の点眼支援器で精密加工業などの技術が有用。

背景

眼科の薬物治療の多くは点眼薬を用いて行っており、点眼補助具は何種もあるが、いずれも十分な有用性を有していない。その為、点眼薬瓶でも本体保持が正しく出来、点眼操作が容易にできる点眼補助具の開発が求められている。



現場の事例

- ADL低下や視力・視野が不良で正しく点眼できない。
- 点眼瓶の先端がまつ毛にあたり、点眼液内に細菌が侵入する可能性がある。
- 高齢者の8割が正確に使用できず、瞼や頬に点眼される。
- 点眼薬の容器が薬品ごとに大きさ、形状、堅さが異なり、適量をうまく出せないなど、現状の点眼補助具では対応できない。

開発の内容

- 軽い力で点眼操作が容易にでき、座って顔をあげた状態で正確に点眼できる。
- サイズや形状が異なる点眼薬瓶でも本体保持が正しくできる。
- 素材は安全性が高い物、柔らかい物を使用。
- 生体に触れずに正確に点眼。
- ボトル押圧力が3倍増~3分の1で操作可能。



開発品

「Eyeラブ」
共同出願No2016-200484



現在の仕様

「Eyeラブミー」
共同出願
No2018-080368



市販されている点眼補助具



該当する点眼薬瓶に限られ、セットすることが難しい物もある

点眼薬の種類 (一部)



大きさ、形状、容器の堅さが様々

今後の展開

サンプルをいくつか作成し、山梨大学 医学部眼科学講座 柏木准教授はじめ、山梨大学医学部付属病院リハビリテーション部、山梨大学医学部付属病院看護部の協力(点眼動作に影響する身体機能を調べ、点眼動作の成功率をあげる指導に活用するための研究)のもと、商品化を実現すべく開発を進めている。

- 産・学・官 連携開発商品をPR
- 山梨大学との共同開発品として強調していく
- 今後の販売に重点取組みを開始していくため、助成、協力体制が重要
- PRカタログ製作→スポンサーへ送付
- 点眼補助具、パッケージ販売に向けてのデザイン化
- (株)エスワイ精機医療チームの充実化